



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-38

(2022. 7. 1)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の住宅ローン残高の動向（2021年度末）

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 2021年度末の信用金庫の住宅ローン残高は、前期比1.1%、2,026億円増加の17兆4,490億円となり、過去最高を更新した。
- 地区別の住宅ローン残高をみると、2011年度末比で東海が34.2%増、関東が28.6%となる一方で、四国（12.1%減）、北陸（11.1%減）は2桁の減少であった。
- 信用金庫別の住宅ローン比率を2011年度末と2021年度末で比較すると、①比率上昇が83金庫、②比率低下は171金庫となり、比率低下金庫が上昇金庫の2倍に達した。
- 2021年度末の信用金庫別の住宅ローン比率は、①15%未満が69金庫、②15%～25%未満が122金庫、③25%～35%未満が54金庫、④35%以上は9金庫となった。

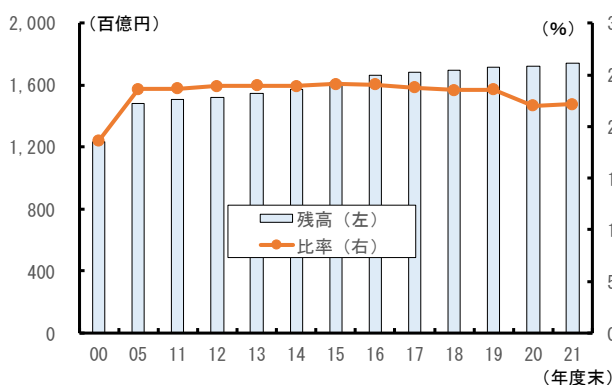
➤

1. 全国の状況

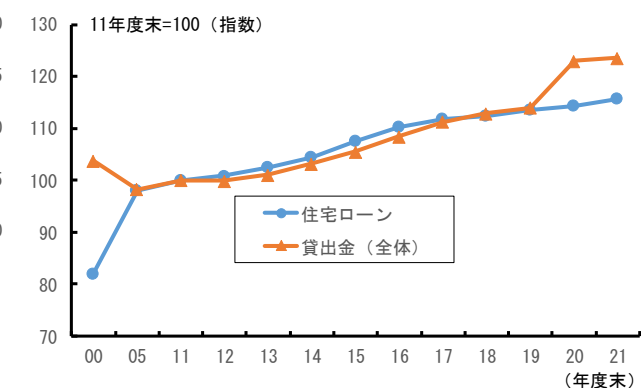
2021年度末の信用金庫の住宅ローン残高は、前期比1.1%、2,026億円増加の17兆4,490億円となり、過去最高を更新した（図表1）。他業態を含めた金利競争が激化しているものの、個人取引の柱に位置付ける信用金庫は多く、残高の増加幅も2011年度末から15.7%増となる。

2011年度末を起点に住宅ローン残高と貸出金残高の変化状況をみると、直近2年間はコロナ対応融資の影響で貸出金残高（全体）の伸びを下回った（図表2）。

（図表1）住宅ローン残高の推移



（図表2）住宅ローン残高と貸出金残高の変化比較



- （備考）
1. 本稿では、他業態との合併等を考慮しない。
 2. 本稿では、切捨ての関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
 3. 図表1から5まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2021年度末の地区別の住宅ローン残高は、東海、関東、九州北部などの6地区で2011年度末比増加し、四国、北陸などの5地区で2011年度末を下回った（図表3）。増加地区のうち東海地区は、

増減率で34.2%増、増減額で1兆2,360億円増に達する。また、地区別の住宅ローン比率は、東海の30.2%から北海道および南九州の15.2%まで開きがみられる。

(図表3) 地区別の住宅ローン残高

(単位：百億円、%)

地区	00年度末	05年度末	11年度末	20年度末	21年度末	11年度末対比		比率	1金庫あたり残高
						増減額	増減率		
北海道	46.7	63.9	57.5	53.0	52.8	△ 4.6	△ 8.0	15.2	2.6
東北	44.7	50.2	43.5	41.6	41.6	△ 1.9	△ 4.4	15.6	1.5
東京	253.2	293.1	266.3	244.7	240.0	△26.3	△ 9.8	15.4	10.4
関東	237.1	294.0	299.0	376.9	384.7	85.7	28.6	26.8	7.8
北陸	35.7	39.6	38.1	34.7	33.8	△ 4.2	△11.1	19.4	2.2
東海	217.9	292.4	360.5	471.7	484.2	123.6	34.2	30.2	14.2
近畿	278.7	295.6	298.2	347.4	349.3	51.1	17.1	20.3	12.0
中国	56.5	67.8	65.7	72.5	74.3	8.6	13.2	21.4	3.7
四国	21.9	29.6	26.2	22.5	23.0	△ 3.1	△12.1	19.4	2.3
九州北部	19.7	25.0	26.4	31.3	32.0	5.6	21.3	22.4	2.4
南九州	20.1	24.9	24.1	24.9	25.6	1.5	6.5	15.2	1.9
全国	1,235.0	1,479.0	1,508.1	1,724.6	1,744.9	236.7	15.7	22.1	6.8

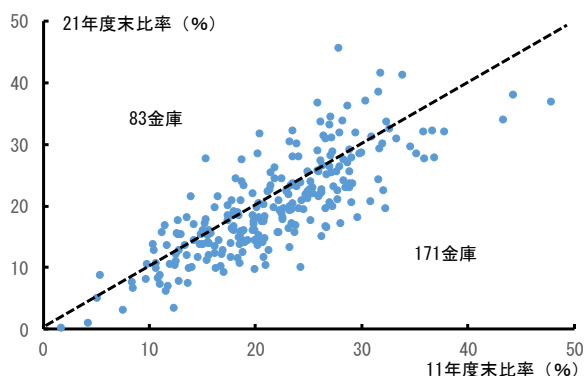
(備考) 沖縄県は全国を含む。

3. 信用金庫別の状況

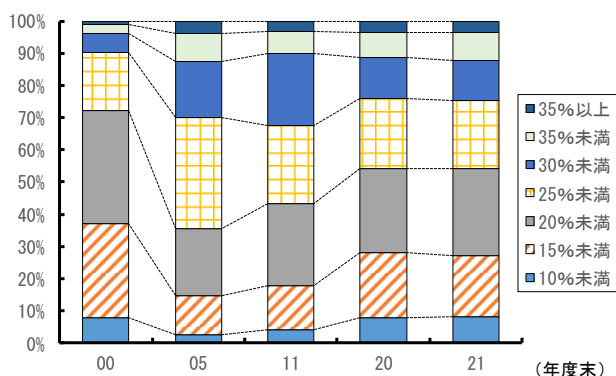
信用金庫別の住宅ローン比率を2011年度末と2021年度末で比較すると、①比率上昇が83金庫(構成比32.6%)、②比率低下は171金庫(同67.3%)となった(図表4)。ちなみに2011年度末から住宅ローン残高が増加した信用金庫は153金庫(同60.2%)となり、なかでも残高が2倍を超えた信用金庫は5金庫あった。

また、2021年度末の信用金庫別の住宅ローン比率は、①15%未満が69金庫(同27.1%)、②15%~25%未満が122金庫(同48.0%)、③25%~35%未満が54金庫(同21.2%)、④35%以上は9金庫(同3.5%)となった(図表5)。なお、住宅ローン比率が40%を超える信用金庫は2011年度末・2021年度末ともに3金庫となる。逆に2021年度末の住宅ローン比率が5%未満の信用金庫は5金庫あった(2011年度末は2金庫)。2011年度末の割合と比較すると、10%未満の信用金庫が11金庫(同4.0%)から21金庫(同8.2%)に倍増している。

(図表4) 住宅ローン比率の変化
(11・21年度末)



(図表5) 信用金庫別の住宅ローン比率



以上

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。